

令和6年度能代市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和7年1月15日（水）午後2時～3時23分

2 場 所 能代市役所本庁舎 3階 会議室9・10

3 出席者 能代市長 齊 藤 滋 宣

能代市教育委員会

教育長 高 橋 誠 也

委 員 木 村 高 寛

委 員 西 村 省 一

委 員 中 嶋 佐千子

委 員 寺 田 恵美子

教育部

教育部長 有 山 勇

教育部次長 田 口 俊 成

教育総務課長 荒 川 幸 代

学校教育課長 安 部 芳 幸

学校教育課参事 湊 正 人

学校教育課参事 藤 田 元 之

生涯学習・スポーツ振興課長 赤 塚 悟

生涯学習・スポーツ振興課

スポーツ振興係長 安 井 大 樹

生涯学習・スポーツ振興課

スポーツ振興係主席主査 高 橋 知 康

教育総務課課長補佐 大郷司 真 一

教育総務課庶務係主査 松 橋 陽 子

4 案 件 中学校部活動の地域移行について

【開会】（教育部長）

ただいまから令和6年度能代市総合教育会議を開催する。

【市長あいさつ】（市長）

部活動の地域移行について、皆様からご意見をお願いしたい。

子供たちが健康に明るく元気に育つには、部活動を通じて、苦勞をともにし、額に汗することによって、本当の友達を得ることも必要なことだと思う。よりよい中学校の部活動のあり方について考える機会としたい。忌憚のないご意見をお願いしたい。

【教育長あいさつ】（教育長）

子供たちが好きなスポーツや文化活動に打ち込める環境づくりが喫緊の課題となってい

る。市でも部活動の地域移行に取り組んできたが、いろいろな課題も見えてきた。これまでの取り組み、課題に皆様からご意見をいただき、今後の方向性を示し進めていきたい。

【案 件】（部長）

これ以降の会議については、能代市総合教育会議運営要綱第3条の規定に基づき、市長が議長として進行する。

○議長（市長）

次第3の案件「中学校部活動の地域移行について」説明を願う。

○生涯学習・スポーツ振興課長

《資料により説明》

○議長（市長）

ただ今の説明について、皆様方からご意見を頂戴したい。木村委員、西村委員、中嶋委員、寺田委員の順でお願いします。

○木村委員

資料にある「スポーツ等」の「等」を、「文化活動」と明記してもよいのではないかな。

スポーツ庁では移行先として、スポーツクラブや民間企業、スポーツ少年団等を想定しているが、都市部と過疎化が進んでいる地域では環境が違うなかで持続可能な地域移行を進めていかなければならない。

一番大切にしたいのは、指導者の育成。指導力や専門的な技術、スポーツ医学などを身に付けた方であることを希望する。登録制度、報酬等の課題はあるが、有資格者で展開すべきである。

スポーツ施設について、すべての種目ができるような施設を中心とした環境を整えてはどうか。子供たちの移動手段としてバスを設け、保護者には時間的、経済的な負担をかけない。そこまで整える必要がある。

教育委員会の関わりはどうなっていくのか。組織体制の運営の主導とはどこまでか。期間は令和8年度以降も続くのか。移行後も関わっていくのか。保護者や関係機関に理解してもらうには説明会を開くなど見える化していかなければならない。

各学校内の芸術文化関係が含まれているクラブ活動も大切にしていきたい。勝つことではない価値を学ぶことや集団の中で成長させ発展していく学び、達成感や連帯感を味わうこと、チームワークやリーダーシップの体験など、クラブ活動の意義は多種多様にあると思う。勝つことではなく、ともに楽しむというのがクラブ活動の本来の意義であるならば、昭和時代の完全主義や勝利主義、至上主義といった部活動から脱却し、令和時代の新しいタイプの活動を作っていくてもいいのではないかな。異世代と同世代がともに活動していく地域クラブというような、新しい認識を持って子供たちを育てていくてもいいのではないかな。文化関係も含めた各学校毎のクラブ活動がともに楽しむクラブという姿であっていいのではないかな。

○議長（市長）

ご意見に対して、事務局から説明をお願いします。

○事務局

地域移行を進めるにあたり、それぞれの部活動の競技人口や指導者の状況、練習場所の受け皿となるのがスポーツ少年団や民間のクラブである。総合型地域スポーツクラブは競技スポーツというよりは異世代が集まり参加できる楽しむためのスポーツクラブである。文化芸術活動を楽しむための新しい発想のクラブも十分に考慮し取り組みを進めていく必要があると考えている。

ソフトボールクラブをモデルケースとして、設立や運営、認定の参考となるようマニュアルを整備し周知することで見える化していく。

指導者は資格のある方がベストだと思っている。資格を取得するための助成も含め、トータル的に地域移行を進めていく。課題である支援のあり方についても検討を進めていく。地域移行を希望してるクラブの方と状況に応じた検討を進め、移行に向けて取り組みを進めていきたい。

○西村委員

スポーツ庁から部活動の地域化について示されたときは、大変難しく、相当な時間がかかるものと思っていた。資料を見てすごく進んでいると感じ大変驚いている。生徒や先生方の視点、そしてソフトボールを実証事業として課題がわかったことで納得して解決できるのではないかなと思う。

運営団体を能代市教育委員会が担うことは、地域クラブや保護者にとって大きな安心感に繋がると思う。

地域移行には、移行先の組織がしっかりしているところで、指導員は的確な人物人格でなければならないと思う。また、保護者の理解と協力が必要になってくると思う。

市は将来を見据えて、休日と平日の隔たりのない体制を作ることなのでありがたいと思っている。

施設については、学校の施設があるので、同じ学校の施設で集中しないように分散したほうがいいのかというふうに感じている。保護者からは、練習場所までの移動手段への不安を多く聞き、何とかしなければならないと思っている。

子供たちがやってみたいスポーツや文化芸術を自由に選択することができ、健やかに成長できるよう心から願っている。

○事務局

地域移行を進めるにあたって、学校、生徒、保護者の部活動に対する意識を今一度アンケートなどでしっかり把握し取り組みを進めていきたい。学校施設や備品は、これまで使用しているものの継続的な活用をお願いしながら器具の確保にも努めたいと考えている。

○中嶋委員

市の取り組みは、ここ数年の問題点を絞り出し、組織体制の見直しを図り、能代市主導で進めることとしたと認識している。

部活の地域移行をスムーズにするためには、地域移行に専念できる教育委員会内での専

門チームを立ち上げ、令和 8 年度以降にスムーズに地域移行できるよう進めてほしいと思っている。

また、市から地域クラブ等への財政的な支援もできる限りお願いしたいとも考えている。

地域移行は、デメリットではなく、メリットとして、競技経験や芸術の経験のある指導者のもと、子供たちが好きなスポーツ、文化ができる環境づくりを市主導で進めていってほしいと思っている。

○事務局

体制を充実させ、どういった支援ができるかというところも十分検討し、地域移行への取り組みを進めていきたい。

○寺田委員

中学校の部活動の目的、意義を市でしっかりと押さえておかなければいけないのではないか。

部活動を通して、生徒の何を育てたいか、どんな中学生になってほしいか、人としてどうあってほしいかというところの思いがなければいけないのではないかなと思う。

社会が求める人、その前の段階の大学が求める人材、そういった視点から考えると、挨拶がしっかりできる人、礼儀を重んずることのできる人、リーダーシップのある人、協調性のある人、自己管理能力がある人、問題解決力がある人というふうに挙げられている。

長きにわたって部活動が教育の一環として考えられてきたのは、そういった必要な人材となるための能力は部活動が大きく支えていたのではないかなというふうに思う。

市がどういった人材を育てたいか、活動を通してどういった子供にしたいかというところを、私たち大人が同じ思いで向かっていかなければいけないのではないかなと思う。

私もやはり指導者が大事だと思う。指導者としての資質や力量があるのは中学校の先生たちだったのではないかな。可能ならば、中学校の先生たちに引き続き能代市の子供たちを育ててほしいという思いがある。それが難しく、課題を解決するため会議が行われているのかもしれないが、願いとしては、能代の中学生は、中学校の先生たちにこれからも指導してほしいという思いがある。

○事務局

「地域の子供達は学校を含めた地域全体で育てる」という観点からそれぞれが役割を果たしていくなかで、挨拶や礼儀、協調性を重んじる子供を育てるということは部活動の大切な役割だと思っている。地域がまず一体となって部活動を地域に移行できるように、一步一步を取り組んでいきたい。地域移行するにあたって、機能すべてを学校から切り離すのではなく、まずは学校からの協力がなければ成り立たないと思っている。学校と連携を図ったうえで、取り組みを進めていきたいと考えている。

課題を把握し、その課題にどう対応できるのか、関係者と協議しながら意識の共有を図り取り組みを進めていきたいと思う。

○高橋教育長

これまで中学校の部活動は、運動や文化活動を通じて、集団の中で社会性を培い、心身を鍛え、仲間を作り個性や能力伸ばしていくという重要な役割を担ってきた。

教師の働き方改革と同時に、団体競技が組めず合同チームを組まなければならない競技、チームを作らなければいけない競技と個人で頑張れる競技などいろいろな課題があった。

ボランティアにも限界があり、民間の方々だけではなく公務員や先生が地域の指導者になれるよう進めていきたいと思っている。運動を楽しみたい、芸術文化に触れたいという子供たちや親御さんもいる。時間がかかるものもあると思うが統括する団体がなければならないので、教育委員会からスポーツ協会に移行していけたらと思っている。

○齊藤市長

例えば、自分の学校でチームは作れるが、他の学校のチームへ入ることはできるのか。部活動の先生方の負担軽減という今の働き方改革の流れから、地域移行してもその地域に指導できる人がいるのか。子供たちがやりたいものに対してどうすればやれるのかということを経済委員会が把握しているのか。

子供たちが競技に取り組める環境ができていくかどうかということだと思う。例えば、教育バスを使い、父兄に負担をかけずに移動できる環境にあるのかなど、子供のために教育委員会がどこまでやらなければならないのかという線引きもあると思う。できることとできないことがわかるようになると対応しやすいのかなと思う。

○事務局

今一度各学校における部活動のあり方、今後、さらに少子化になっていったときに、現状の部活動を維持していくのか、減ってきた部活動は廃止の方向で考えているのか、競技でない部活動、楽しみを重視したクラブ活動を増やしていく考えなのかなど、学校とも連携しながら、確認をしていかなければならないと考えている。

地域移行とはどういう形を目指すのかという認識を共有できるような明確なものを打ち出し、学校、生徒、保護者に、市の取り組みの方向性というものを示し、いろいろなご意見をいただいて、方向性をしっかりと伝えながら進めていくことが大切であると思っている。

指導者については、地域の状況を把握し、今後の取り組みにつなげていきたいと考えている。

○市長

やりたい部活動があったらできるような環境を整えなければならない。そのためには財源的な問題も出てくる。大人たちが知恵を出して子供たちの希望をかなえてあげるという前向きな気持ちを持ってほしい。

○部長

これをもちまして、令和6年度能代市総合教育会議を閉会する。